

栗原NN通信

2019年3月4日発行
第8号（平成30年度第4号）



●「高収益作物の導入に向けた研修会」を開催しました

県は、農地整備事業の実施と併せ、高収益作物の導入を推進しています。栗原管内では、多くの地区で農地の大区画化や用排水施設の整備が進んでいるものの、稲作を主体とする担い手が多く、高収益作物の導入をどう進めるかが課題となっていました。そこで、担い手や関係機関を対象に、「高収益作物の導入に向けた研修会」を、2回開催しました。

1回目の平成30年11月30日（金）は、高収益作物のひとつであるばれいしょ（ジャガイモ）をテーマとした「高収益作物の導入に向けた土地利用型園芸研修会」を開催しました。89人が参加した研修会では、カルビーポテト株式会社の菊地さんから「加工業務用ばれいしょ生産に向けた今後の展望や支援概要」についての講演があり、続いて農事組合法人おおしお北部の津野さんと宮城県青年農業士の佐藤さんから現地事例を紹介いただきました。

第1回研修会テーマ
「ばれいしょ栽培」のイメージ写真



第2回研修会テーマ
「長ねぎ栽培」のイメージ写真



2回目となる平成31年2月6日（水）には、高収益作物のひとつである長ねぎをテーマにした「高収益作物の導入に向けた担い手育成研修会」を開催し、102人が参加しました。農事組合法人館島田生産組合の小野さんからは「法人化した経緯や周年労働体制の確立に向けた高収益作物（長ねぎ）の取り組み」について、ヤンマー株式会社の大學さんからは「経営面積に応じた高収益作物の機械化体系」についてご講演いただきました。

2回の研修会をとおり、参加者からは「高収益作物の導入に向け本格的に検討していきたい」という前向きな姿勢が感じられました。

当部は、今後も管内の農地整備地区における高収益作物の導入に向けた支援を関係機関と連携して行っていきます。

●大目地区の区画整理工事を施工しています

平成29年度に事業がスタートした農地整備事業「大目地区」では、いよいよ今年度から工事が始まりました。今年度は約6haの田んぼの区画整理工事をを行っています。区画整理工事では、農道や排水路等の農業施設の整備や農地の大区画化を行います。工事を実施することで、転作作物を作付出来る面積を拡大し、農作業の効率化を図ります。現在は農業用水設備の施工や区画整形等を行っており、工事は順調に進んでいます。平成31年春の作付に向け、今後も工事の進捗を図ってまいります。



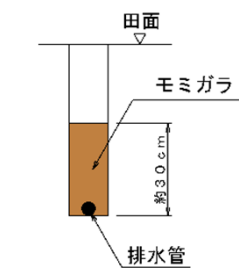
暗渠排水工事を紹介します

稲刈りが終わったころ、ほ場の近くに緑色のビニール袋が大量に積み重なっているのをご覧になったことはありませんか？あのビニール袋の中には暗渠排水工事で使用するもみがらが入っています。

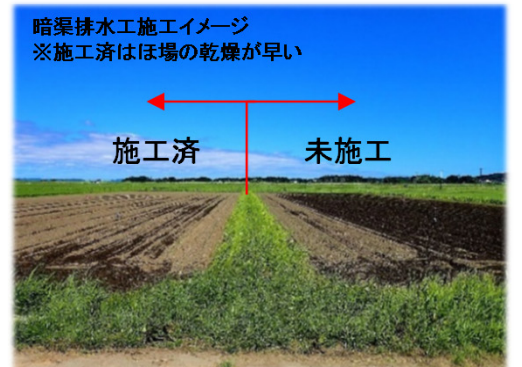
暗渠排水工事とは、ほ場の地下に排水管を埋設することで、ほ場の地下排水能力の向上を目的として行うものです。工事の際は、専用の掘削機械（トレンチャー）を使用し、幅15cm、深さ60～100cm程度の溝を掘り、その中に排水管を入れていきます。もみガラは排水管と一緒にほ場の地下に埋設し、排水管による地下水の排水を補助する役割があります。

暗渠排水工事を行ったほ場では、排水管の末端に設置された水閘という栓を開閉することで、地下水の排水を行うことができるようになります。ほ場の地下水位を下げることによって、湿害に弱い畑作物（大豆など）の栽培が可能になります。また、暗渠排水には、地表の余剰水を排水する能力もあることから、ほ場の乾燥を促進し、農作業機械の走行性が改善されるという利点もあります。

今年度暗渠排水工事をやっている迫第四地区では、これから工事が本格的に動き始めます。工事は年度内に完了させ、翌年度の作付けに間に合うよう工事の進捗を図ってまいります。



<暗渠排水工イメージ図>



しゅんせつ

●農村地域防災減災事業 沼倉2期地区の工事現場で浚渫工事現場研修会を開催しました

平成30年12月12日（水）、栗駒ダム（栗原市栗駒）で、農業農村整備事業の関係機関を対象とした栗駒ダム浚渫工事（※）現場研修会を実施しました。この研修会は、浚渫工事についての理解を深めることを目的に当部が企画したもので、今年度で3回目の開催となります。

当日は、宮城県や栗原市の職員15人が参加しました。研修会では、当部から栗駒ダムの概要や沼倉2期地区の事業説明を行い、さらに受注者（株式会社 新総建設）から空気圧送による浚渫工事の施工方法についての詳細を説明しました。参加者からは、「浚渫土を貯泥池まで配管で空気圧送するのにどのくらいの時間がかかるのか」など多くの質問を受けました。現場では、ダムから空気圧送船による浚渫状況と、ダム上流部に設置した貯泥池への排砂状況の見学を行いました。参加者は、浚渫工事現場に興味深く見学している様子でした。



※浚渫工事とは、「海底や河床等の土砂を掘削し、掘り下げる作業」のこと。栗駒ダムでは、平成28年度から取水塔周辺の堆積土砂の浚渫作業を実施している。

●栗原地域農業農村整備関係情報連絡会議を開催しました

平成31年2月5日（火）、栗原合同庁舎会議室にて、平成30年度第2回栗原地域農業農村整備関係情報連絡会議を開催しました。

本会議は、5月に引き続き、今年度2回目の開催で、栗原市産業経済部農村整備課、迫川上流土地改良区及び小山田川沿岸土地改良区の担当職員が出席しました。

会議では、今年度及び来年度以降の栗原管内における農業農村整備事業や実施計画等について活発な意見交換が行われました。

今後も当部では、情報連絡会議を継続的に開催し、関係機関との情報共有を図り、円滑な事業推進を進めていきます。



●ため池の保全と管理に関する研修会が開催されました

近年、東日本大震災、一昨年九州北部豪雨、昨年西日本豪雨と地震や豪雨でため池が被災し、堤体の決壊等により人的被害や住居、農地等の被害へとつながる深刻な事態が起きています。農林水産省が現在、国会に提出している「農業用ため池の管理及び保全に関する法律」では、ため池所有者の届出や適正管理の努力義務等を謳っており、管理者の意識向上と適正な管理能力の習得が必要となっています。

こうしたことから、平成31年1月23日（水）、栗原市築館農村環境改善センターを会場に県及び市町村の担当者と管内のため池管理者を対象に研修会（主催：宮城県ため池保全協議会）が開催され、約150人が参加しました。

研修会では、ため池に関する基礎知識・管理の方法について説明があり、参加した方たちも真剣に聞き入り、多数の質問がなされました。



●区画整理事業「上富地区」の権利者会議を開催しました

平成31年1月24日（水）、栗原市瀬峰農村環境改善センターにおいて、区画整理事業「上富地区」の権利者会議を開催しました。上富地区は、昭和30年代の耕地整理事業で10a区画に整備されたもので、水路は用排水兼用の土水路で底高が浅く、水管理や維持補修に多大な労力を要してきました。また、農道は狭小で大型農業機械が進入できず、農業経営の近代化や省力化に支障をきたしていました。そこで、区画形状の拡大や用排水路の完全分離を実現し、生産性の高い近代的な農業基盤を確立するため、平成21年度に区画整理事業上富地区として採択され、今年度に事業完了を迎えます。

当日は、総権利者数69人のうち67人（書面議決書による出席を含む）が出席し、全会一致で換地計画が可決されました。



権利者会議の様子

●中山間地域等直接支払協定活動支援研修会を開催しました

平成31年2月21日（木）、「宮城県中山間地域等直接支払協定活動支援研修会（栗原管内）」を行いました。中山間直接支払交付金事業は、平地と中山間地域の格差を是正するため、平成12年度からスタートした制度で、現在4期事業に取り組んでいます。本研修会は平成32年度から始まる第5期対策への継続促進を図るため開催しました。当管内では、73組織が本事業に取り組んでおり、当日は45組織から69名が参加しました。本研修会では、事業制度の説明や他管内の事例紹介のほか、当管内でも増加してきている鳥獣害対策について、講師の（株）渡辺サービスセンター相澤あゆみ氏からご講演をいただきました。出席した組織の方からは活発な質問や意見が取り交わされました。



愛宕地区が全国水土里ネット会長賞に選ばれました

あたごうぶすな

平成30年度農業農村整備優良地区コンクールで、愛宕地区（（株）愛宕産土農場）が全国水土里ネット会長賞に選ばれました。このコンクールは全土連の主催で、農業農村整備事業を契機として豊かで競争力のある農業や美しく活力のある農村の実現に取り組んでいる地区の中から優れた地区を表彰するもので、授賞式は3月下旬に東京で開催されます。

愛宕地区では、地域の担い手が「一集落一農場」の理念を掲げ、平成19年に（株）愛宕産土農場を設立、耕作面積の拡大と併せ農地の集約化を図ってきました。また、地域に根ざした特産物として、枝豆の栽培を推進し、さらに「ずんだ」の加工及び、販売先の拡大を図るなど積極的に活動していることが高く評価されました。



北部地方振興事務所栗原地域事務所

農業農村整備部(広報担当)発行

〒987-2251

宮城県栗原市築館藤木5-1

TEL:0228-22-2111 FAX:0228-22-9284

H P: <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nh-khsgsin-ns/>



編集後記

栗原NN通信第8号をご覧いただきありがとうございます。今年度は今号で最後となります。来年度も栗原地域の「農業農村整備」の取り組みを定期的に発信していきますので、ご期待ください。



仙台・宮城観光PRキャラクターむすび丸

